

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373600521		
法人名	有限会社やまなみ		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	岡山県勝田郡奈義町高円1736-11		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	k.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&igiyosyoCd=3373600521-00&PrefCd=33&Version=
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成29年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員の立場ではなく、人と人との関係を築き、職員を家族や近所の人だと思い込み、親しく接することで落ち着いて過ごせる。
 家庭に近付けられるよう多くの決まりごとを持たず、思い思いの時間を過ごせる。
 地域の方々と交流することで気軽に訪問して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目を迎えようとしているGHやまなみは、今、色々な厳しい問題を抱え込んでいる。ひとつは利用者の高齢化に伴う心身の重度化である。少し前まで出来ていた事が、今日は出来なくなっている。長い期間に亘って原因を探る努力を続けても不穏な動きが続く利用者が居る。他のホーム同様に職員不足が不安、等々。しかし、今日の訪問中この様な気掛かりも吹き飛ばす様な笑い声が溢れかえっていた。このホームでは決まり事は少なく、ひとりの利用者の思いつきやお天気の具合で動きが決まったりする。今日は「ホワイトデーだから、これからケーキを数人で買いに行く事になった」そうだ。おおらかで楽天的な空気が、認知症という病のマイナス面を吹き飛ばしている。誰が認知症になっても、このような空気の中に関わりたいと思うのではないだろうか。今まだ天辺に雪を載っている那岐山の麓に位置するホームならではの事かもしれない。貴重なホームと私は思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入社時に説明。ミーティング時に理念がケアに反映されているかを職員間で話し合い、統一を図っている。	玄関・リビングに掲示している理念を日々、意識しながら利用者に対する姿勢・ケアの方向性等を職員間で話し合っている。利用者の残存能力を活かしながら、利用者本位でその時、その日を楽しく暮らしていけるよう職員は心を込めて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事参加や幼稚園との交流を続けることで、園児やその家族が切り花を持ってきてくれるなど、互いに楽しみにする関係ができています。子供110番の受入れや、地域の方と気軽に挨拶を交わす、近隣の方と立ち話ができるなどの関係が築けている。	幼稚園との交流があり、先日は幼稚園の「ひな祭り会」に利用者と一緒に訪問して園児と触れ合い楽しい時間を過ごした。近所の方の野菜の差し入れは毎日の事であり、地域のボランティアの協力で「今日は庭で鉄板焼き」という事もよくある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前から活動してきた、生活支援サポーター育成講座も継続しており、地域で活動するサポーターもできている。認知症についての研修会に参加し、認知症の理解等を行い、中学生の研究への協力、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では家族も気軽に参加して頂き、利用者の状態を良く把握して下さっている。参加できなかった家族には議事録を送付している。ホームの状況など細かく報告し理解を深めている。	運営推進会議は家族が参加しやすい日時を設定し、行事に併せて開催しているので家族・利用者の参加が多く、町の職員・地域包括、地域住民等の参加もある。活動報告や情報交換をしているが、参加者同士顔馴染みの関係の人も多く、時には雑談になる事もある。	利用者本人や家族の発言が記録にきちんと残されている貴重なホームと思う。ホーム側からの課題を提示して参加者から意見をいただく取り組みを加えれば、さらにステップアップできると思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や協力を得たり、ホームでの様子や情報を共有できる場として地域ケア会議に参加し連携を図っている。職員や利用者とも定期的に顔を合わせ、適切なアドバイスもあり、良い関係が作れている。	28年度から始まった他職種合同研修には必ず参加している。又、地域ケア会議のメンバーであり認知症に関する情報交換や意見交換もしている。町の担当者と定期的に会議等で会う機会もあり、何でも相談できる良い関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りや対応を振り返り、研修やミーティングで確認や学ぶ機会を持つようにしている。個性の把握、見守りを重視する姿勢で鍵をかけない環境作りができています。	玄関、勝手口は出入り自由であるが、今、外出願望が強く不穏な行動が続く人がおり、その人の気持ちを尊重しながら試行錯誤の対応をしている。外に出る時は職員がどこまでも付き添い、復路は車で迎えに行く時もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の見守りや対応を振り返り、研修やミーティングで確認や学ぶ機会を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やミーティングで確認や学ぶ機会を持つようにしている。対応が必要と思われる利用者がある場合は、利用者、家族、市町村担当者等と相談しながら利用者の支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には個別に時間をとって一方的な説明にならないように心がけている。疑問等については十分説明して納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話や来訪時に意見や要望等を問いかけ、何でも言ってもらえる関係作りを心がけている。思いや意見を表す事の出来ない利用者も、共に暮らしていく中で、嫌な事、好む事を捉え、運営に生かしている。	日頃から何かと家族の協力が得られ、率直な意見や要望もいただける。春のお花見会には毎年、大勢の家族の参加があり盛会と聞いた。毎月のホーム便りを楽しみにしています。家族で拝見していますと言ってくれる家族もいる。	ホームは家族との絆が強く、運営推進会議等でも意見の反映がよく分かる。次のステップアップとして、日常的な家族のホームへの協力を、例えば個別アルバム作成や話題材料として使ってもらおう等、お願いしてみればより深まるのではないかと。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週一回のミーティングで業務・経営改善等の意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、何でも言ってもらえるような関係作りを心がけている。	毎週ミーティングをして利用者の事、業務に関する事等、職員間でよく話し合っている。勤務年数の長い職員も多く、お互い気心もよく分かりチームワークが良い。今日の思い立ったら即、行動の場面でも職員間の連携とフットワークの良さに感心した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に出て利用者や職員と過ごしたり、職員の業務状況や悩みを把握しようと努めている。また、職員の資格取得に向けた支援を行ったり、勤務中には気分転換できる休憩室を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームに講師を依頼するなど、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。又、研修内容はミーティング等で共有し、研修報告も閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの見学や交流を通じて意見や経験から学び、サービスの質の向上を目指している。介護支援専門員協会勝英支部の役員会には1回/月参加し、情報交換や交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用者に向き合い、気持ちや不安を受け止め、利用開始前にも訪問することで信頼関係作りに努めている。利用者によっては体験利用してもらう等の対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、求めていることを十分に聞き、受け止め、話し合いや関わりを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り家庭に近い環境が保てるよう、必要に応じて柔軟に対応できる体制を整え、安心・納得しながら利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いや願いを職員が共有しており、得意なこと、出来ることを見極め、お互いが協働しながら生活ができるように場面作りをしている。職員は利用者から知恵を学ばせてもらうことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や状態を伝え・相談し、家族が活躍できる場面や役割を作っていくことでケアの充実を図っている。電話の支援や季節の絵葉書を家族に送るなど関係が途切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの暮らしの情報を収集し、地域の馴染みの方や昔から利用している美容院、商店とのつながりを継続できるように取組んでいる。面会時間の設定は無く、家族や知人が自由に来訪している。	利用者はホーム近隣の人が多く、家族、元職場の人、昔の仲間、友人等、日々の面会も多い。散歩やドライブの途中で自宅に寄ることもあり、顔馴染みの近所の人と会話が弾むこともある。昔からの行きつけの理髪店に通っている人もいて、馴染みの関係が継続出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルもあるが、個性や利用者同士の相性を考慮し、さりげなく席替えを行うなど職員が調整役となり、良い関係が保てるように努めている。ホールや自室に招き入れ、利用者同士で会話を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約の終了後も経過を見守ったり、会いに行く等の継続的支援を心がけている。ご家族から連絡を下さったり、立ち寄って下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で利用者の言葉や行動、表情から把握に努めている。希望や意向を明確に把握しにくい入居者に対しても家族から過去の生活歴などの情報を得て、個々の思いや意向を把握するよう取り組んでいる。	外に出たい人、異性やアイドルが好きな人等、利用者はその人なりの言葉や行動で感情の放出をする。職員は個々の思いをしっかり受け止め、その人らしさを大事にしている。職員の気づきや利用者の言動・状況等を経過記録に記入して職員間で共有している。	あらゆる角度からの考察で利用者の思いや意向を把握しようという努力は評価出来る。利用者の経過記録等の「記録の単純化」「共有につながる工夫」が加われれば、さらに効果的な成果があがるだろう。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、利用者をよく知る関係者より、生活歴や生活習慣等の情報を収集し、利用者の人生の過ごし方について捉えることを継続的に積重ねている。又、新たな気づきも情報シートに残し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りや利用者の1日の過ごし方や状態を確認し、持てる力を最大限発揮できるよう、できる力、わかる力を把握することに努めている。一人ひとりの一日がその人らしく自然に過ごせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や定期的な連絡で話したことや週1回のミーティングで話し合った利用者の変化を分かりやすくし、本人・家族が見やすくスタッフが統一のケアが行えるようシートの検討も行っている。最近では、アセスメントシートの変更をした。	本人・家族の意向を聞きながら、現状に即したケアプランを職員間で話し合っって作成している。定期的にモニタリングをすると共に身体面のみでなく、精神面についても担当者間でカンファレンスしており、心のケアにつながるプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気づいた事、利用者の気持ちや言動を常に記述ができ、暮らしや日々の顔が読み取れるよう個別にファイルし、職員間で情報の共有を徹底し介護計画や実践につなげるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族が、安心、満足の保たれた暮らしが続けられるように、医療、食、日々の生活の中では墓参りや選挙に行くなど、要望に応じて柔軟に対応できるように職員配置をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのかかわりをもった自由と安らぎがある暮らしが保てるように、地域のボランティアを活用したり、地域の行事等には積極的に参加し、情報交換や協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。主治医には情報シートを提供しており、信頼関係をもとに質向上を目ざしている。また、体調不良時など24時間の緊急対応が可能であり医療面での安心した提供を確保している。	以前はそれぞれのかかりつけ医へ受診をしていたが、現在では全員が協力医の往診を受けている。専門医への受診に関しては従来通り家族に付き添いをお願いしている。訪問看護師の定期的来設もあり、医療と介護の連携が出来ているので安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの関係を密にし、日常の健康管理や医療面での相談・助言・対応、利用者の状態を勘案し、馴染みの関係を構築してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との会議を1回/月行い、連携を図っている。入院する際は医療機関に情報を提供し、1回/2日は見舞うようにしている。また、医師、家族とも話し合いの機会を持ちホームでの対応可能な段階でなるべく早く退院できるように情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化に応じて、利用者や家族の意向を確認し、対応できるケアを説明している。医師はホームでの看取りに理解があり、ホームで医療が受けられる。利用者、家族が安心と納得を得られるように、医師、職員が連携を図り体制を整えるようにしている。	過去には数名の看取りの経験があるが、現在は体調不良の人もいなく、全員落ち着いて過ごせている。入所時には本人・家族に終末期ケアのあり方について説明しているが、今後もホームでの看取りの希望があれば医療機関と連携を取りながら出来る限りの支援をしていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故予防・再発防止・緊急時の対応についてマニュアルがあり、周知徹底を図っている。応急手当や緊急時の対応方法についての研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応マニュアルがあり周知徹底を図っている。消防署や地域の消防団の協力を経て避難訓練等を2回/年行い、夜間を想定した訓練も実施している。近隣の方との災害時の協力体制もできている。	毎年避難訓練をしているが、今年1回目はビデオ学習をし、2回目は消防署立ち会いの下で地震災害時を想定した避難訓練を実施した。災害対策については地域の人と運営推進会議等でも話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルがあり、利用者の気持ちを大切に考え、さりげない言葉かけや対応、利用者に合わせて言葉かけが行えるようミーティングで話し合い、管理者、職員とも振り返りと徹底を心がけている。	利用者の人格を尊重し言葉や態度には日頃から気をつけているが、新規・派遣等の職員の気になる言葉使いや対応には注意喚起を促している。今回、改めて接遇に関する資料を作って研修をすると聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で表した心身の情報を職員が共有し、利用者の状態に合わせて自己決定しやすい言葉かけや場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務計画表があり、基本的な1日の流れは決まっているが、利用者のペースを大切に、日々の言葉などからしたい事を把握し、個別に柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように取組んでいる。自己決定のしにくい利用者には、職員と一緒に個性を生かした装いになるよう支援している。また、馴染みの理・美容店の利用など個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、食事、片付けなど利用者の能力を活かしながら職員と一緒にやっている。献立は利用者と相談しながら季節の食材を取り入れ、味や人との交流を楽しんでいる。又、年中行事や祝い事には器を変えるなど、雰囲気作りも大切にしている。	野菜は毎日のように差し入れがあるので、その日にある材料で職員が考えて作る料理は家庭の味。両ユニットでメニューも違う。昼食に揚げたての天ぷらや具沢山の野菜カレーを美味しく頂いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の習慣や日頃の様子を観察しながら柔軟に利用者に応じた対応をしている。また、医師と連携しながら食事・塩分・水分量を把握し疾病管理を行っている。栄養士には栄養指導を受け、ホームでの健康管理に活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の習慣や状態に応じて、持てる能力を活かしながら、口腔内の清潔保持に努めている。毎食後には歯磨き・就寝前には洗浄し、清潔を保っている。協力歯科医には口腔に関係する全般のケアについて指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立が出来るよう表情や様子から尿意・便意を察知し、さりげなくの誘導。自ら訴えない利用者も排泄パターンを知ることでトイレで排泄できるよう支援している。紙パンツ等は利用者に合わせて検討・見直しをミーティングで行っている。	布パンツの人も1名いるが殆どの方は紙パンツを使用している。夜間は尿器に自分で排泄する男性利用者もいる。個々の排泄リズムを見ながら声かけ誘導をし、失敗時には風呂場とトイレが直結しているので清潔保持にもすぐ対応できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に依存せず飲み物や食品に配慮すると共に、日々の生活の中で運動や十分な水分補給を働きかけ自然の排便を心がけている。また、レクリエーションでは利用者と一緒に腹部マッサージを行うなど、便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は1回/2日の入浴となっているが、利用者の希望に合わせて入浴できるよう、柔軟に対応している。また、季節を感じられるように柚子風呂やバラ風呂などを楽しんでいる。身体機能の低下した場合にリフトも設置している。	リフトが設置されている浴槽もあり、現在は3名が利用している。各脱衣場のホワイトボードには利用者個々の皮膚疾患と塗布薬が記入されている。週3回入浴できている人が殆どで、今は入浴拒否の人もいない。冬至の柚子風呂は利用者に喜ばれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や活動状況を把握し、できるだけ日中に活動して過ごせる環境作りに努めており、入眠の時間帯に合わせて個別の支援を行っている。また、体調や表情、希望に配慮し、ゆっくり休息できるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品名カードを個別にファイルし、職員がいつでも内容を確認、把握できるようにしている。1人ひとりに合わせた服薬介助をミーティングで話し合い個別の対応をし、状態変化が見られる時は医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年なじんだ習慣や好み、経験を発揮できる役割を作り出すように場面を作り、働きかけている。外出や行事などの楽しみ事は利用者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や天候に応じて、利用者と相談しながら積極的に外出している。外出や外泊などに不安を感じる家族には、ホームでの様子やケアについて話し合い、急変やトラブルにも対応できる体制を整えており、ご家族との外出する機会も大切にしている。	事前に企画して実施する花見は家族と一緒にお弁当持参で楽しみ、その日の気分やお天気ですっきりと買い物やドライブへ出かけるのは日常的な事。今日は「ホワイトデー」のケーキを買いに行く話がすぐにまとまり、10人乗りの車に便乗させてもらって利用者6名職員2名と一緒に買い物に出かけた。フットワークと手際の良さに感心した。利用者も大満足だった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や家族の協力を得ながら、少額のお金を持っている方もいる。 外出時には希望・要望があれば自ら買いたいものを買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	人目を気にしないで話がしやすい場所へ電話を設置している。家族等へ本人の希望、ホームでの行事ごとや季節の絵葉書を送る支援をしており、返信もある。利用者や家族の希望に応じて、日常的に電話ができるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、利用者と一緒に作った壁画を貼ったり、季節の花や実を飾るなどして、居心地がよく、安全と衛生の保たれた暮らしができるように努めている。窓から見える風景は梅、木蓮、紅葉、那岐山の雪化粧など、季節が感じられる。	毎月利用者と一緒に壁紙を作成し、リビングや居室にこれまでの作品が展示してある。折り紙・ちぎり絵のお雛様も華を添えている。広い空間にテーブルやソファがほど良く配置され、それぞれ自分の好きな場所で本を読んだりテレビを見たりおしゃべりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置やデッキにはガーデンテーブルを配置し、一人で過したり、気の合う利用者同士がくつろげる空間作りに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく暮らせる居室となるように、今まで家で使っていた食器や家具、布団、馴染みの物や思い出の品々が環境作りに必要なことを家族に理解、協力をお願いし、個別に応じた工夫に取り組んでいる。	思い出のタンスやご先祖の位牌を持ち込んでいる夫婦や孫からの手紙や写真をコルクボードに貼っている人もいる。それぞれの部屋には本人が選んだ季節感溢れる壁紙の手作り作品が展示され、見ているだけで楽しくなる。清潔感のある居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状態に合わせて、ベッドに手すりを付けるなどの工夫をしている。状態に変化があれば、その都度、ミーティングで話し合い、持てる能力を活かした暮らしが出来るように環境整備に努めている。		